
北の空へ

水元あくあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

北の空へ

【Nコード】

N4694I

【作者名】

水元あくあ

【あらすじ】

北海道の空は、青く青く澄んでいて、この雄大な土地にぴったりな気がする。

だってこの空はどこまでも果たしなくつながっていると考える空だから。

北海道の空は、青く青く澄んでいて、この雄大な土地にぴったりな気がする。

5月初旬、初めて北海道で生活を初め、その孤独感から最初は自分の大切な何かを奪われたような気持ちになった。

北見は盆地の街で、四方を山に囲まれており夏は暑く冬は寒い。

ちょうど初夏を迎えようとしていたあの頃、私は一人で過ごす時間の大半を家で過ごしていた。

それでも時折気分を変えようと、坂道を駆け上がるとそこは高台となっていて今ある現実を映していた。

あれから数カ月。

私はこの北見の土地で仕事を見つけ、生活をしている。

まったく知らぬ土地。

だけど人はとても温かい。

仕事のないうらかな午後には、そつと窓の外から青い空を眺めてみる。

車を走らせながら、見る青い空も好きだったけれど

窓の内側から見るこの景色もどこか雄大でこの窓枠から見える空も

どこかへと確実につながっているのだろうなと思えた。

もつすぐ冬の訪れを迎える北海道の空。
また新しい景色を運んでくれるだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4694i/>

北の空へ

2010年12月10日21時45分発行